

聞こえぬ声

神林 里美

心閉ざして ひとり

砂の丘に立つ

誰の声も聞こえない

暗闇の中で輝く星々を探す

何もないはずなのに 空に輝くのは
意味深な笑みをした三日月だけ

足元に輝く真っ白な砂は

どこまでも冷たく 崩れ落ちる
振り返ると いくつもの窪みが
僕のルーツを示している

風が吹く

それは時に僕の視界を奪い
僕の足場をさらっていく

こんな場所じゃ 君の声なんか
聞こえるはずもなく

どこへ向かえばいいのかも分からぬ

君を探して 僕は今日も
砂嵐の中をさまよう

神林 里美

一九九二年生まれ 茨城県出身

中学時代から小説などの創作活動を始める。高校時代は文芸部に所属し、いくつかの大会で入選。大学に入つてからは、気ままに創作活動を行つている。